



港南台 9 条の会が港南台地区センターに「平和への願いをこめて」と題して、折り紙で薔薇の花を作り展示したのは早春のことでした。大変な関心を寄せていただきました。私も展示作品をエルミタージュ紙上で紹介しましたが、その折に、次のような言葉も付け加えてしまいました。

長崎で被爆した永井隆博士の邸宅のバラが、広島に寄贈され、被爆者の救援に命を捧げた「永井博士記念のバラ」とされています。これも平和の象徴です。レッドリアンズ種のピンクのバラで香り高いとのこと。なんとか、このバラも育ててみたいと思っています。

エルミタージュを読んでくださった友人の淳子さんが、バラ園を訪れ、それを捜して下さったそうです。残念ながらその種は手に入りそうもないということで、淳子さんはそれ以上の芳香性の高い「フレデリック・ダール」種の白薔薇を、私の誕生日に贈ってくれました。四季咲きでたくさんの花がついた見事な鉢植えです。また、葉っぱが濃い緑色で、花とのコントラストもシャープな感じでした。



何よりも香りが私のベランダのバラたちとは違っていました。フレデリック・ダール種は白色が基本だそうですが、その芳香は薔薇の甘いエッセンスに加えて、強さ、鋭さを感じさせる香りもします。香りは「土壌・気候等の生育条件、時間帯により異なり、感じ方には個人差がある」とのことです。3 回目の秋の開花となりましたが、我が痩せた鉢では「血統書付きの御令嬢」も貧弱な老婆になりかねません。せっかくの四季咲きですから、私も夫に倣い、花への「餌やり」に努めましょう。

エルミタージュの玄関階段の横に白いジンジャーが今、咲いています。花に鼻を寄せると、♪きつと あなたは 白いジンジャーの ジンジャーの香りが苦しくて 涙をそっと 流すでしょう♪ という感じになるほどの香りですが、風に乗ってやって来るぶんには、本当にうっとりするほど素敵です。



白と言えば部屋の中で、「刷毛眉」という不思議な白い花が咲いています。この花も植木が趣味の方から頂いたもので、3 年目です。匂いは感じられません。去年は 3 つ花がついたのに、やはり愛情が不足したかしら…と反省しています。実は今年は薔薇の鉢が 3 つ、空き家になりました。害虫に負けてしまったのでしょう。花は小さな命を輝かせて、私の生活を彩り、慰めてくれています。大切にしたいといつも思っています。

先日、ノーベル平和賞を「核兵器廃絶国際キャンペーン (ICAN)」が受賞し、本当に嬉しく思いました。各国政府に対して、[核兵器禁止条約](#)の交渉開始・支持のはたらきかけを行う団体です。被曝された永井博博士も薔薇を愛し、育てながら核兵器廃絶を祈っておられたことでしょう。核兵器はもとより、原発も悪魔の道具です。核によってどれだけ多くの命が奪われ、危険にさらされていることでしょう。ICAN は、核の恐ろしさを知り、日本の被爆者を思いやり、苦しみを理解し、この運動を始められました。被爆国の日本こそ、この運動に率先して働くべきです。世界の多くの方々がこのキャンペーンに連動し、核兵器廃絶実現のために、それぞれができる活動をし、発言し、基金を作り、置かれたところで働いています。一人一人の命をかけたがえのないものとし、平和に生きることを願って。